

【訂 正】

『獨協経済』第96号（2015年3月刊）に掲載された論文、山下裕歩「内生的貨幣供給モデルにおける貨幣資本と現実資本」の23頁に、誤って24頁の内容が掲載され、本来の23頁の内容が掲載されておりました。次頁に同論文の本来の23頁の内容を掲載いたします。

『獨協経済』編集委員会

よび銀行は、預金金利 j と貸出金利 i という価格変数に対しては価格受容者として行動することを仮定する。

このとき、銀行の利潤 π_B は、

$$\pi_B = iM(K_l, K_s) - jK_s \quad (9)$$

と書ける。これを最大化する一階条件は、

$$\frac{\partial \pi_B}{\partial K_s} = i \frac{\partial M}{\partial K_s} - j = 0 \quad (10)$$

である。この式は、銀行の貨幣資本（預金）需要関数である。また、信用創造関数そのものが銀行による貨幣供給関数である。

一方、企業の利潤 π_F は、

$$\pi_F = F(K_l, M) + jK_s - iM \quad (11)$$

と表される。企業は、総資本 \bar{K} が一定であるという制約の下で利潤を最大化する。従って、企業の最適化問題のラグランジュ関数は、 δ をラグランジュ乗数（総資本のシャドウプライス）として、

$$L_F = F(K_l, M) + jK_s - iM + \delta(\bar{K} - K_l - K_s) \quad (12)$$

となる。最適化の一階条件は、

$$\frac{\partial L_F}{\partial K_s} = j - \delta = 0, \quad (13)$$

$$\frac{\partial L_F}{\partial K_l} = \frac{\partial F}{\partial K_l} - \delta = 0, \quad (14)$$

$$\frac{\partial L_F}{\partial M} = \frac{\partial F}{\partial M} - i = 0, \quad (15)$$

$$\frac{\partial L_F}{\partial \delta} = \bar{K} - K_l - K_s = 0 \quad (16)$$

である。(13) 式は、企業による貨幣資本（預金）供給関数であり、(15) 式は企業の貨幣需要関数である。

銀行と企業の最適化条件を整理してまとめると、

$$\frac{\partial F}{\partial M} \frac{\partial M}{\partial K_s} = \frac{\partial F}{\partial K_l} \quad (17)$$

を得る。(17) 式は、貨幣資本の間接的な限界生産性が、現実資本の直接的な限界生産性に一致することを示している。

3.3 生産部門が金融部門を内部化する場合

競争均衡においては、企業は自身が受け得る与信額（貨幣供給量）が自身の保有する現実資本と貨幣資本の関数であることを考慮せずに最適化を行うという設定であった。言い